

2013年度のCERCの活動について

2011年1月に発足した宗教文化教育推進センター（通称CERC）は3年を1期としているために、2013年度をもってひとつの区切りを迎えた。この間に5回の宗教文化士認定試験を行い、計243名の受験申請者のなかから、144名の宗教文化士が誕生した。また、教材作成においても、2011～2014年度科学研究費補助金基盤研究（B）「宗教文化教育の教材に関する総合研究」（研究代表者井上順孝國學院大學教授）と連携して、「宗教文化を学ぶための基本書案内」、「世界遺産と宗教文化」、「映画と宗教文化」、「博物館と宗教文化」、「宗教文化に関する基本用語クイズ」という5つのコンテンツを作成、公開している。そのうち、「世界遺産と宗教文化」と「博物館と宗教文化」についてはスマートフォン向けアプリを開発しているデジタルアドバンテージ社の「ロケスマ」を用い、スマートフォンで地図と連動して活用できる形で提供している。

第1期のうち2012年度までの活動報告は『日本文化研究所年報』第6号を参照されたい。以下では、2013年度の活動内容として1.宗教文化士認定試験について、2.宗教文化士へのサポートについて、3.宗教文化教育推進のための教材作成について、それぞれの詳細と今後の展望及び課題を報告する。

1. 宗教文化士認定試験について

第4回認定試験は2013年6月30日（日）、北海道大学・東北大学・國學院大學・皇學館大学・関西学院大学・龍谷大学・天理大学の7つの大学で行われた。受験者総数33名で、

うち合格者は22名であった。次の第5回認定試験は11月10日（日）に國學院大學と関西学院大学の2か所で実施され、受験者は42名、合格者は25名であった。

また、これまでの試験で宗教文化士資格を取得した人の所属・修了大学をまとめたところ、以下の25大学から資格取得者が出ていることがわかった。宗教文化士資格への認知が広がっていることがわかる。なお、以下のリストはCERCホームページ上で公開中であり、試験毎に更新をしている。

大谷大学、オーストリア国立ウィーン大学、関西大学、関西学院大学、皇學館大学、國學院大學、駒澤大学、首都大学東京、上智大学、清泉女子大学、大正大学、東京大学、東北学院大学、東北大学、東洋大学、同志社大学、中央大学、筑波大学、天理大学、北海道大学、八洲学園大学、立教大学、立正大学、龍谷大学、早稲田大学

2. 宗教文化士へのサポートについて

宗教文化士へのサポートとして、年に4回配布している「サークメルマガ」は、2013年度末までに8号までを発行した。メルマガでは、CERCの協定機関の一つである宗教情報リサーチセンターが発行している『ラク便利』から記事を抜粋し、それぞれに解説を施している。また、協定機関や大学での講演会やシンポジウム情報を掲載することで、宗教文化士たちが最新の研究動向に触れることができる機会を提供している。

CERCのHP (<http://www.cerc.jp/>) に設

けられた「宗教文化士専用掲示板」では、資格取得者から質問が投稿され活用が進んでいる。質問が寄せられた場合、事務局研究員が専門家に回答を依頼するという形をとっており、宗教文化士たちがそうした応答を掲示板で共有することによって宗教文化理解が深まることが期待される。

また、宗教文化士が優待を受けることができる協定機関として以下のものがある。今後も協定機関の拡充を図っていく。

天理大学附属天理参考館、東洋文庫ミュージアム、宗教情報リサーチセンター、國學院大學研究開発推進機構資料館

3. 宗教文化教育推進のための教材作成について

認定試験の際に行うアンケートでは、毎回CERCホームページの教材の利用状況を尋ねているが、およそ7割の受験者がこれらの教材を利用したことがあると回答している。現在公開しているのは以下の教材である。

- ①「宗教文化を学ぶための基本書案内」
- ②「世界遺産と宗教文化」
- ③「映画と宗教文化」
- ④「博物館と宗教文化」
- ⑤「宗教文化に関係する基本用語クイズ」

前述したように、このうちの②と④についてはスマートフォン向けの地図アプリ「ロケスマ」と連携して、表示される地図上のピンをタップするとCERCで作成している教材へとリンクされるシステムとなっている。「ロケスマ」をスマートフォンにダウンロードしたのちに、トップ画面→「コラボ・イベントマップ」→「宗教文化教育推進センター」と進み、該当マップをダウンロードすることで使用することができる。

また、受験者へのアンケートのなかで過去に出題された問題の解説を希望する声が多

かったことから、正答率が3割を切る難問については解説を作成し、CERCホームページで公開した。教材の過去問題集のページからみることができる。これ以外にもアンケートでは、書籍の形での教材を希望する声が毎回数多くみられる。書籍については、既刊の井上順孝編『世界の宗教超入門』（東洋経済新報社、2013年）があるが、2014年度に櫻井義秀・平藤喜久子編『よくわかる宗教学』（ミネルヴァ書房）が刊行される予定であり、同書は宗教文化士認定試験のテキストとしての役割を期待されている。

4. 今後の課題

宗教文化士資格は5年間有効であり、その後希望者は更新することができる。2016年に最初の更新が予定されており、資格更新の方法として、e-learningと講演会、メルマガに基づくレポートの提出などが計画されている。これまでで150人近い宗教文化士たちを輩出しているが、資格取得者のなかには、大学を卒業したのちに宗教文化を学ぶ機会を失う人もいることだろう。そうした人びとに対していかにして継続的な学びの機会を提供することができるのか、更新方法と内容の検討を通して、資格取得者が卒業後の生活においても宗教文化理解を深めることができる環境を整える必要がある。また今後は、仕事や生活の中で宗教文化士の資格が実際にどのように役に立っているのか、体験談を募るなどして資格活用の状況を確認する作業も必要となってくる。

受験希望者については、教材へのニーズが高いことから、現在公開中のコンテンツのさらなる充実が求められる。特にインターネットやスマホアプリでの教材提供は、受験希望者のみならず、資格取得者、また広く宗教文化に興味をもつ人びともにも価値のあるものとなるであろう。

（村上 晶）